

動物園とサーカスにおけるゾウの訓練

【Elephant Training in the zoo and circus】

http://www.upali.ch/training_en.html

なぜ、ゾウは訓練されるか？

最も適した動物として、継続的に、うまく使われ飼育されてきた家畜とは異なり、動物園とサーカスのゾウたちは、素敵で素晴らしく見えるけれども、彼らは、野生動物である。落ち着いた乳牛のメスや乗用馬のような同じ方法で、サイ、トラ、シロクマを取り扱おうとは誰も考えないだろう。



アジアの人々は、どうやってゾウを訓練するか？

東南アジアでは、ゾウを馴らす方法（馴化方法）は、数千年以上にわたり、発展し微調整されてきた。野生のゾウが捕えられた時（ケダ = khedda と呼ばれる誘い込みで）、捕まえられたゾウは、数頭の熟練したゾウ（kumies）に並んで縛られ、訓練場へ引きずり出される。

これが、苦い容赦のない（悲惨な）「調教」プログラムの始まりである。このステージは、約 1 週間続き、若い野生のゾウが、ヒトの意思に完全に服従することを達成するはずである。



↑ケダ = khedda による真の野生ゾウの捕獲

どうやって、野生のゾウは、調教されるか？

このゾウ（依然として野生）は、木の杵あるいは、2 本の木の幹の間に縛りつけられ、そこでは、動くことができない。そして、ロープから逃れようと悶え、鼻を無意味に振り回しているゾウは、自分の象使い（mahout）に逢うことになる。ゾウを調教するために（使えるようにするために）、若いゾウは、何度もゾウ用の手鉤で突き刺され、殴られる。同時に、象使いは落ち着いた声で、ゾウに話しかける。



恐怖、痛み、口渇と空腹は、最終的に、ゾウに全ての抵抗をあきらめさせる。若いゾウが、自らの運命を受け入れ始めたとき、象使いは、ゾウが川で水浴びし食べることを許す。けれども、このゾウは、最初から最後まで、（監督役の）使役ゾウと、しっかり（ロープで）繋がれ続けている。

数週間後に、この若いゾウは、連れ出されることに充分におとなしくなっているだろう。しかし、今まで通りに、足かせをはめられ、数人の象使いにより監督される。しかし、もはや、（監督役の）使役ゾウは随伴しない。この「初期段階」の後に、この若いゾウは、使役ゾウになるために適した訓練を受け始める。



動物園のゾウは、同じ方法で訓練されるか？

飼育下で産まれたゾウの場合、ヒトに慣れることを学ばなければならない調教段階は無用である。このように、動物園やサーカスで産まれたゾウは、調教される使役ゾウとは、性質的（性格的）に非常に異なる。なぜならば、産まれた大部分のゾウは、（飼育係を含んだ）家族群と永久的に、飼育下で生活し成長する。

それでもやはり、非常に早い時期にヒト（すなわち、飼育係）と共存することを学ばなければならない。飼育係との共存は、生後間もなく早く学ばなければならないという決まった（固定した）原則が必要である。

誰が、ゾウを訓練するか？

訓練するヒトは、ゾウに魅せられていることが必要だが、これだけではなく、ゾウたちを取り扱い、ゾウと一緒に働くことができるために、いくつかの必須条件が必要である。しかし、その条件は、総ての人々は有しておらず、全ての飼育係たちですらも有していない。



素晴らしい（優れた）調教師には、何が必要か？

ゾウの飼育係または調教師は、ゾウの皮を身につけなければならない（ゾウにならないといけない）。飼育係は、ゾウのように感じて、ゾウのようにふるまわなければならない（動かなければ）ならない。このためには、飼育係は、非常によく、自分のゾウたちを理解して

いなければならない。飼育係は、観察力（眼力）、感受性、決断力と正常な厳格さを必要とする。何よりもまず、飼育係は、ゾウ同士が、お互いにどのようにふるまうか、闘争（心的葛藤）をどのように解決するか、ゾウたちが、どのように喧嘩し闘争するかについて見なければ（知らなければ）ならない。

動物園のゾウは、何を学ぶか？

動物園のゾウの訓練は、実際に役に立つ訓練に限られる。動物園のゾウは、毎日のヒトとの接触と、ゾウの予防衛生のために、命令（号令）を知らなければならない。例えば、辛抱強く立ち続けたり、足のケアーのために足を挙上したり、洗浄のために横臥したりすることを学ばなければならない。

サーカスのゾウは、何を教えられるか？

サーカスのゾウは、その上に（動物園のゾウの学習内容に加えて）、興行で見せることになっているいくつかの芸を学ばなければならない。サーカスには、ゾウたちの強さと敏捷さや、むしろ彼らの感受性を見せる素晴らしく感動的なゾウの集団がある。しかし、また、ゾウにとって全く不自然な行為を見せることをゾウに強要する悪い（間違った）サーカスの芸（演技）もある。

後肢で立ち上がることと同様に、前肢2本による逆立ち、さらには前肢1本による逆立ちが、悪い（間違った）芸の一つである。



ゾウが後肢だけで立つことは、ゾウにとってなぜ有害か？

自然においては、交尾しているオスゾウだけが、あるいは、オスゾウが、高い木の果物を鼻で取ろうとする時にだけ、後肢で立ち上がる。

メスのゾウには、普通は、この妙技をする天賦の才がない。若いメスゾウは、時々、石

や壁の上に足を載せるだろう。

成長したメスゾウは、この姿勢は楽ではないように思える。

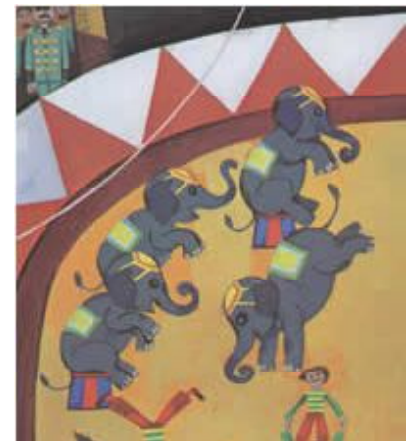
サーカスのゾウは、なぜ、時々、後肢で立ち上がるか？

ほとんどのサーカスのメスゾウたちはまた、たとえ、メスゾウの体型にとって不自然であっても、この芸を行わなければならない。おそらくは、メスゾウたちがすでに行った芸よりも、ゾウをさらに大きく、よりさらに感動的にゾウを見せるために、この「体を起こし、許しを乞う」姿勢は、サーカスで、あまりに普通に見られるようになった。

しかし、さらにまた、多くのゾウ調教師と調教師は、自分の命令にゾウたちが従い、ゾウのパワーを観客の前で、実証するためにこの芸を使う。

ただ、単に、観客は、これらの（悪い）芸をゾウに教え込むために、ゾウに対してゾウ用手鉤をどれくらい使い続けたかを知らないので、ゾウのパワーの実演は、サーカスと動物園の観客の両方に好評である。

これらの（悪い）芸のための訓練の運動量は素晴らしい（良いもの）かもしれないが、この悪い芸のための訓練は、毎日、ゾウと一緒に働き、事故を予防するために、ゾウと調教師の間に、非常に重要であるお互いを尊敬（敬意）することと信用を築かない。



いつ、訓練を開始するか？

訓練は、赤ちゃんゾウが生まれて、早くも生後 2 日目から始まる。120kg 以上の体重の赤ちゃんゾウは、飼育係を突いたり、壁に押しつけたり、小さな足で蹴ったりしては決してならないことを、すでに知らなければならない。もし、赤ちゃんゾウが、それら（攻撃）をしようとした場合、ゾウの飼育係は、落ち着いて、軽く（ちょっと）我が身を守らなければならない。しかし、自分の手か手鉤により、赤ちゃんゾウに一撃を加えなければならない。



調教師は、いつも厳しくなければならぬか？

この経験（一撃）は、子ゾウに自分の飼育係に対する初めての尊敬（敬意）を教える。

しかし、ゾウの飼育係はまた、子ゾウに信頼を表現しなければならず、子ゾウを撫でなければならない。愛撫的態度（撫でること）は、重要である。ゾウが接触する動物であるというだけではなく、このように、子ゾウは、頭の先から爪の先まで触ることを許すことを習う。

全ての訓練は、命令（号令）が付属する。最も重要なものは、「Yes」、「No」、「Good」である。この号令で、子ゾウは、何をすることを期待されているか、何をしたら良いか、何をしたら許されないかを理解する。

どのように、訓練セッション（期間）は、始まるか？

約1歳の時には、子ゾウは、他のゾウたちのように、体を洗うために足を繫留（鎖で繋ぐ）することができるようにする時期である。この段階に、約2カ月がかかる。最初に、子ゾウに軽い足の鎖をつけさせる。飼育係が、鎖を子ゾウの足に縛りつける間、子ゾウは、辛抱強く立っていることを学ばなければならない。このことは、全くもって難しく、全員の忍耐と感性が必要である。子ゾウとの一貫した訓練は、また、重要である。一貫性とは、一旦、飼育係たちが繫留訓練を始めたら、毎日、この訓練を続けなければならないことを意味する。

子ゾウが、鎖をつけさせるようになった時、鎖を短時間、前肢に縛りつける。これが、なめらかに確実にできるようになった後に、後肢について、同じ訓練を始める。この時、この子ゾウは、飼育係が何を望んでいたかを理解し、飼育係は、子ゾウが縛られることを学んだことを理解する。この時もまた、子ゾウは、従わなければならない（服従しなければならない）。

何をしなければならないかを、若いゾウは、どうやって知るか？

ゾウが何か良いことをする時には、いつでも、ゾウは褒美をもらえる（スライスしたり、ブドウ糖や他のちょっとした何か）。しかしながら、もし、ゾウがわざと間違った（反対の）何かをしたり、全く何もしない場合には、これは、以前の暗い（ネガティブな）経験と関係している。その暗い経験とは、手鉤や鞭を使って、叩いたり、引いたり、殴打したことであろう。もちろん、これらは、正しく号令を実行しようと、期待（希望）を持って一生懸命に努力しているゾウにとって、たいへんひどい悪影響を及ぼす（害を与える）。ゾウの飼育係は、自分の号令によって、うまくことを進めなければならない（優位に立つ、説得する）。さもないと、飼育係は、ゾウと親密に、お互い生活する（生きの

びる)ことは不可能である。

しかし、道具(手鉤や鞭)を適度に(ほどよく)使うことは、飼育係各個人次第である(各個人の責任である)。このことは、いくつかの動物園とサーカスの欠点(苦手)である。有能(優秀)な職員はまた、動物園とサーカスでは雇用に費用がかかる。



どうやって、若いゾウは、命令(号令)を学ぶか？

例えば、ゾウに伏臥することを教えるために、しばしば、ロープ牽引装置(Habegger)を助力として使う。ゾウの後肢は、この装置によって引き倒すことができ、それで、ゾウは伏臥しなければならなくなる。つまり、自然な動作は、この装置で支持される。ゾウの飼育係は、ゾウの足を押し下ろしたり引いたりする十分な体力を有さない。

調教師は、ゾウとヒトとの間の体力差を埋め合わせるために、訓練に利用するあらゆる器械が必要である。これらの装置は、素晴らしい助力であり、手鉤で殴打したり、悲鳴をあげることから、ゾウを守るために適切に使われる。

それ(牽引装置)は、少し残忍でないか？

とはいえ、動物園の観客にとって、これ(牽引)は、しばしば、残酷で解りにくいものである。このこと(牽引)は、素人にとっていつも理解されないことである(けれども、実際の動物の飼育では、残酷というものは、ほとんどない)

しかし、あらゆるウマの飼育係とあらゆるイヌの飼い主は、飼育や訓練のために、手綱やリード(鎖)を使っている。そして、彼らは見物人を伴わずに仕事をしている。

馬は、手綱で急激に走るし、犬に伏臥を教えるには、犬の体を単に手で下に押すだけである。

何が、残忍か？

現代の動物園やサーカスで、決して使うべきではないものは何かと言えば、飼育場で蔓延していた、火、白くなるまで熱した鉄、吸い殻、手鉤の外傷への酸性物質、電気ショック器具であり、その他の異常な方法は、「依然として最近」も使われている。これら総て

が、残忍で邪悪な方法である。

私は、この写真の子ゾウが、数個の砂糖の褒美だけで、号令により、頭で逆立ちしているだろうとは思わない。

チューリッヒ動物園に来園したメスゾウ（Indy）は、ミャンマーで捕獲され調教された際に負わせられた創傷により多くの傷跡があった。このメスゾウが、どんな経験をしたか疑わしい。



ゾウにとって正しい（良い）訓練があるか？

素晴らしい（正当な）訓練がある。それは、難しいが、ゾウに適しており、現代的で文明的な動物園とサーカスにおいて実行されるべきである。

しかし、依然として今日も、非常に残忍な訓練方法が現存しており（その方法は、伝統的な訓練とは関係がない）、ただ単に、ヒトの気持ち（態度）をゾウに向けるだけである。

（正しい訓練を目指したいと思っている）あなたは、それ（正しい訓練）を理解するために、必ずしも遠くに旅行する必要があるというわけではない。

補遺（日本語翻訳版のみ）

翻訳者が著者（ジョージ フレイ氏）に質問した際に、非常に有意義と思われる示唆を頂いた。著者は、以下のことは、有能な飼育係であれば、ゾウに関してだけではなく、すでに知っていなければならない基本的なことであると述べています。著者の許諾を得て、以下にその示唆を示す。

ゾウの飼育係が、自分に対するゾウの信頼を確認する方法は何か？

あなたに関するゾウの尊敬を確認するための唯一の方法は、「YES」と「GOOD」あるいは「NO」、そして「TRY AGAIN（もう一度やりなさい）」の言葉を使ってゾウを訓練することである。あなたは、極めて首尾一貫し矛盾なく、公平でなければならない。しかし、あなたは、ユーモアと冗談をけっして忘れてはならない。そして、ゾウもまた、冗談を理解する。

あなたは、ゾウが、あらゆる素晴らしい仕事をした際に（号令に従った際に）、素晴らしい御褒美（美味しいエサと誉め言葉）をけっして忘れてはならない。そして、ゾウが悪

い仕事をした際に（号令に従わなかった際に）、あなたは、罰を与えることをけっして忘れてはならない。

しかし、ゾウが素晴らしい仕事をした際に、3 個の美味しいもの（バナナやブドウ糖のお菓子）を与えることが、最も良いことであり、もし、あなたが、ゾウに上手に罰を与えることができることをゾウが知っていれば、ゾウの仕事を修正するためには、手鉤を見せるだけで良い。もし、あなたが上手に罰を与えることができない場合には、決して、ゾウを訓練してはならない。それは、長い訓練（道のり）である。

『冗談とユーモアを決して忘れてはならない』とは、どういう意味か？

ゾウたちと私の付き合いは、いつも素晴らしい同僚（仲間）のようだった。したがって、私は、ゾウと接している時も、天気、テレビ番組、私と動物園の主任とのトラブルをゾウに喋っていた。私は、ラジオでながれている新曲も歌っていた。私は、ゾウと接している時は、けっして無言ではなかった。

私がどこに居るか、私の気分（機嫌）がどうかを、ゾウたちは、いつも知っていた（解っていた）。唯一の敵は、無言であることである。

飼育係たちが、喋らなくなり笑わなくなった時には、ゾウたちにとっては恐怖だろう。それは、飼育係の沈黙の後にゾウに嫌なこと（体罰）が起こるのではなくて、飼育係が黙っていること自体がゾウにとって恐怖であるという意味である。

黙ってゾウと一緒に居る（仕事をする）ことは、飼育係自身にとっても、恐ろしいことだと私は思う。黙っていることは、刑務所では良いことかも知れないが、ゾウたちとの付き合いではないかもしれない（刑務所の看守のように黙ってゾウと一緒に働くことは良くないだろう）。

ゾウとの仕事に関する私の意見（考え）は、他の全ての動物のように、友人または同僚と共に働くように、ゾウと共に仕事をするることである。ゾウの飼育係は、有能な（素晴らしい）父親、または有能な（素晴らしい）上司（チーフ）のようであなければならない。ゾウの飼育係は、ゾウを奴隷のように扱ったり、拷問にかける（体罰ばかり与える）人間であったり、刑務所の看守（命令以外、ゾウに何も語りかけない）のようにゾウと共にけっして働くべきではない。ゾウの飼育係は、特に素晴らしい職務（職業）であり、そのためには、ゾウのように、ゾウと同じ魂（精神）と性格（個性）を持たなければならない。

チューリッヒ動物園において、ゾウのための新人飼育係を育てる方法は？

私は、私がゾウ舎において、飼育係・調教師としての仕事をどのように学んだかをあな

たに教える。

最初の段階では、ゾウ担当の初心者は、最も古く経験豊かなゾウの飼育係と共に、いつも働く。私の場合には、そのヴェテラン飼育係（先生）はルーディ・タナーであった。

我々は、新人飼育係が、だいたい単独でゾウたちと仕事をするためには、約3～4カ月を要するとみなしている。この時には、ゾウたちと直接接触する際には、先生（ヴェテラン）が訓練生を指導する。

初めの2週間に、先生は、全ての仕事を準備する。つまり、先生は、ゾウを洗浄し、ゾウの足、皮膚、歯の世話をし、ゾウに若干の運動をさせる。この時には、訓練生は何も仕事をしないし、ゾウに何も命令しない！ 訓練生は、先生の後ろで、まさしく、見て、聞いて学ぶ。

次の2週間で、役割を変える。訓練生はゾウと共に働き、先生は、訓練生の後ろに居て、訓練生の行為を修正する。先生は、（訓練生の背後から）ゾウに命令を出す。ただし、訓練生は、「good」という命令しか出さない。例えば、先生がゾウを寝させた後に「up（起きなさい）」というように、訓練生は、「good」あるいは「yes」だけを言う。訓練生は善人であり、先生は悪人である。

この後、先生は、訓練生から少し離れる。離れる場所は、たぶんゾウ舎の壁である。しかし、先生は、いつも、訓練生とゾウを非常に注意深く観察する。しばらくすると、先生は、訓練生が単独で良いゾウ（おとなしいゾウ）と共に仕事をするのを放っておく（自分の監督下において、好きにさせる）。

訓練生が、Chhukha（暴れメスゾウ）のようなゾウと共に働かなければならない時には、先生は、戻って来て、彼の存在をゾウに示す。Chhukha が、ゾウ舎にルーディ・タナーが居ることを知っている時には、訓練生は、良い仕事ができたと、なんら大きな問題は起きなかった。

先生のルーディ・タナーと、私のような訓練生が、同じ日々に、学ぶことがまた非常に重要だった。すなわち、同じ日に休暇をとることが重要である。つまり、いつも一緒に仕事ができるようにスケジュールを組むことが重要である。このように、ゾウと共に働き学ぶことだけが、ゾウを訓練する技術上達のための唯一のうまくいく可能性のある方法である。そして、それは、うまくいくという保証は何もない（しかし、この方法でも、うまくいく可能性があるというだけで、うまくいく保証があるわけではない）。

なぜ、私（Georges Frei）が、このゾウのウェブサイト (<http://www.upali.ch>) を作ったか？

我々も、多くの悪い経験をした。それで、私は、私のウェブサイトの中の Upali の章 (http://www.upali.ch/zoo_born_en.html) に、それを書いた。

全てのゾウ飼育係たちは、Komali (メスゾウ) が生まれた直後や、非常に若い頃には、Komali に殺される運命の調教師と、Komali とが、非常にうまくやっていた (暮らしていた) ことを知っているに違いない。それから、Komali が、とても親しかった数人のゾウの飼育係は動物園を退職した。そして、新しいゾウの飼育係が、彼らの代わりに来た。悲しいことに、(Komali と新しい飼育係たちとの関係は) 良い方向に向かわず、状況は悪化した。新しいゾウの飼育係の誰も、Komali の信頼を得る管理ができず、事故 (が起こる可能性) は、ますます、現実味を帯びてきていた。

不注意だった瞬間に、Komali は、彼女の元のゾウ調教師に重傷を負わせた。調教師の最後は秘密にされ、調教師は翌朝、安楽死された。そして、Komali もまた、悪意のある行動 (凶暴な性格) のために、1995 年に 11 歳で安楽死されなければならなかった。

私にとって、Komali の死は、とてもとても悪い (深刻な) 心的外傷 (トラウマ) となった。私がゾウの仕事だけでなく研究をも始めたのは、このこと (Komali の死) がきっかけである。

(Komali の死の) 9 年後に、私は動物園を退職した。

私は、私が何を学んだかについて、あなたと、そして関心があるあらゆる人に伝える。これは、また、私が、どうして、私のゾウのウェブサイトを書いたかという理由である。

ルーディ・タナーは、ゾウについての彼の人生を出版した。残念なことに、この本は、ドイツ語版しかない。彼は、チューリッヒ動物園で、ゾウたちと 40 年間以上働いた。そして、彼はヨーロッパで、最も評判がよい (有名な) ゾウ調教師のうちの 1 人であった。私は、良い日も悪い日も、彼と一緒に 20 年間働いたことが誇らしい。